

さ ざ ん か

第 107 号、2010 年 10 月

秋の訪れは駆け足でした。毎年、似たようなものなのでしょうが、若いうちはそういう季節の微妙な変化には気づいてはいてもあまり関心がないのか、意識して季節の変わり目を口にすることはなかったような気がします。季節の変わり目に関心を示すよりも、もっと沢山の関心ごとが若者の周囲にはあったのでしょうか。

微妙な変化とは対照的に、伊佐平野ではダイナミックな水田の緑色から黄金色への色彩の変化がいつも通りおとづれ、その黄金色の色彩も例年通り刈り取られていきました。

このいつもの絵に書いたような大地の変化を見ていて、日本農業がどういう形をとっていくにしろ、この豊かな大地そのものがある限りそれは心配のないことなのかなあと思いました。どこかの国のように目先の利益を追うことばかりにうつつを抜かして取り返しのつかない土壌汚染や水の汚染、枯渇を起こしてしまえば、それは深刻な問題であるが、健全な土地があるかぎり、日本農業は大丈夫である。ただし、今の農業従事者が大丈夫かどうか、は農政次第である。とも思ったのですが、ホントのところはどうなのでしょう。

日本の危機ばかりあおる新聞、テレビ（と、それに出演する知識人）ですが、井上陽水の今から 40 年前の歌「傘がない」の歌詞は以下のごときものでした。いまと一緒に。まあ、新聞やテレビがこのころはまだメディアとしての存在感が大きかったのでしょうか。あるいは、昔から危機感を煽るその体質は変わっていないと解釈できるのでしょうか。

都会では自殺する若者が増えている

今朝来た新聞の片隅に書いていた

テレビでは我が国の将来の問題を

誰かが深刻な顔をしてしゃべっている

俳句

西屋敷喜美子

コスモスの 風やわかき 車椅子

理学士の 眉目やさしき 秋の空

夫病みて 淋しさつもの 秋の雨

病院からのお知らせ

*7月から当院はDPC対象病院となり入院、外来のシステムが若干変わりました。具体的には、主として長期入院が困難になります。そのかわり、リハビリテーション中心の亜急性期病床などの設定がありますので、それらをご利用いただいております。

亜急性期病床は20床分準備してあります。

*病院内では、全ての方にマスク着用をお願いしておりましたが、とりあえず4月から義務付けは解除いたしました。しかし、また寒い季節となってきました。訪問される方は、マスク着用をお願いいたします。

*骨密度、測ってみられましたか？ご希望の方はいつでもできますので、各科窓口でおたずねください。適切な治療で骨粗しょう症の進行を予防できることがあります。

骨密度を上げるお薬を服用している方は、骨密度が上昇したかどうか確認してみてもいかがでしょうか。骨折予防は寝たきり予防につながります。

骨年齢：あなたの骨は〇〇歳です。という表示が出ます。

*MRIで脳の検査をしてみませんか？目的は脳卒中や認知症（ボケ）の予防につながるからです。また、脳動脈瘤（くも膜下出血の原因となる）の発見にも威力を発揮します。脳ドック以外でも脳神経外科または神経内科外来にてご相談ください。

無症候性の病変（症状はないけど梗塞がある）がみつかると予防の治療を開始した方もおられます。寝たきりや認知症にならないためにも一度は検査されることをお勧めいたします。

*MRIは腰痛の検査にも威力を発揮します（脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなど）。あるいは肩こりや手のしびれの原因を探すのにも有用です。精密検査希望の方は神経内科外来にてご相談下さい。

*新式のマンモグラフィーが導入されております。乳がん検査に威力を発揮いたします。近年乳がんが増加傾向です。乳がんが気になる方は外科外来へお申し出ください。

昭和28年8月15日の朝

本石 明子

よく晴れてさわやかな朝でした。いつものように出勤して診療の準備をしていました。処置室となりの院長室には平壤の穀粉会社の社長さんが見えていて、何となく厳しいお顔で、ひそひそ話しておられました。何だろう？何かあったのかな？と思いながら仕事に追われている私の耳に、「まだ早い、揚げろ」。今まで聞いたことのない院長先生の怒声が聞こえました。何事かと外を見たら、車夫（当時人力車でした。）の金さんが国旗掲揚台から日の丸を降ろしているところでした。

金さんはあわてて元に戻しましたが、「まだ早いとは・・・」気にかかりながら仕事を続け

代、生活が苦しかった思い出がある。あの時の苦い体験が頭をよぎる。戦中、戦後のあのださくさの中、周囲のみんなと手を取り合い、助け合いながら生き延びてきた。丁度この頃、父は戦地へ、母一人で農作業、子育てとあって、男の子、私は厳しく育てられた。特に、男の子は正直者で信頼される人になれ、母のこの一言が今も脳裏に残っています。私にとっては母が教えてくれた一言に感謝しています。

私もこれまでの人生の中で、42年間、営業マンとして活躍した中で、母が教えてくれた事を忠実に守ったお蔭で、全国セールスコンテスト大会で連続2回優勝できました。こうして考えて見ると、いつの時代でも、ひとは正直者で、信頼される人になることが最も大切ではなかろうか。

今日も一日が楽しく明るくなるように。

短歌

瀬戸好子

蝉しぐれ いつしかやみて 庭隅に 今年初めての 蟋蟀の声

桜木の枯葉は 風に煽られて 庭隅に寄る 秋告ぐるごと

八十路過ぎ 無理に新車を買うべきか 孫に欲しいと嫁はよろこぶ

政治とカネ

カラーマン (とその女)

たぶん、官僚制度が完成した江戸時代から政治とカネにまつわる不祥事はあった。(越後屋と悪代官の関係とかね。)

中国なんか今でも賄賂が横行しているというか、それが普通らしい。(でも、中国を基準に不正とか道徳とかは考えないほうがいいと思うわ。もともとの思想とか道徳とかが根本的にあつた国とはちがうのだから)

しかし、政治家が不正蓄財するという出来事と政治活動にはお金がかかるというのは別物である。例えば国会議員の給料について、国会が開かれている日数だけ日割りにしろという幼稚な意見がある。アホも休み休み云って欲しいものだ。

(サラリーマンの給料を、土日祝日の休日を除いて日割りで計算しろと云うのと同じだし、学校の先生に夏休みの給料は払わない、という話と同じだわねえ。議会に出る日だけが仕事ではないのだから。授業がある日のみが教師の仕事ではないのにねえ、まったくばかばかしい議論だわ。)

行き過ぎた合理主義というか、本質を考えていない幼稚な単純日割り計算は止めてほしいし、それをそのまま伝えるマスコミも勘弁して欲しいなあ、と思う。

議員の報酬はなくしてしまい、本当に議員をやりたければ全てボランティアでやれ、というこれまたとても幼稚な意見も聞かれたりする。お金が絡まなければ、悪いこともしないだろうというお子ちゃまが考えるような意見である。

何故、幼稚なのか。考えても見たまえ、ボランティアで議員が出来るという人間は、要するに議員の歳入がなくても生活可能な金持ちか資産家ということになるではないか。

金持ちや資産家だけが議員になると考えてみてごらん。ぞっとするでしょ。議員（政治家）と云う職業をもち、それで糊口を凌ぐという側面があればこそ、貧しくても優秀な人材も集まるのである。

議員（政治家）になって、一旗あげたいという若者がいても良いではないか。政治家になって権力を行使する（世の中を変える）ことが人生の目標になっても良いではないか。

（貧乏人が這い上がり夢を見るのは、何もスポーツとかお笑いのような芸能関係だけでなくても良いのなものね。いい意味で国会議員も憧れの職業になるべきなんだわ。）

国会議員の年収が数千万円であって、何が悪いのだろうか。ただほど怖いものはない。歳費をいらぬというバカ金持ち議員だらけになると、おばかサン達は給料は貰わないが、みんなでつるんでやりたい放題ができる。自分たちで法律が作れるから税金も取りたい放題である。巧みに誤魔化しながら、官僚達とつるんで自分たちに都合の良い法律ばかり作るであろう。（今の金持ち優遇税制の強化とか、貧乏人いじめの消費税の導入なんか簡単にできちゃうわね）

そうなった時、結局は大損するのは国民である。目先の幼稚な議員歳費の日割り制度の議論などに振り回されてはいけない。

某テレビ司会者の1時間の出演料2、3百万円とか聞くととき、お金は有効に使うべきだとしみじみ思う。彼は月に数千万円の単位で稼いでいるのである。年に、ではない。月に、である。その司会者が自分のテレビ番組で、「国会議員の給料は高いぞ。議会のある日のみの日割り計算にしろ！」と叫んでいた姿が印象的だ。くだらない彼のバカ話の1時間の収入がワーキングプアの若者の年収よりも多いのだ。これは、何かが間違っているとしか言いようがない。

なぜこういう国会議員歳費日割り論のような幼稚な議論が出てくるのであろうか。多分、

それは人間の嫉妬心と誤解のなせる業である。その嫉妬心と誤解をあおっているのがマスコミである。

品がないが（あらあ、もともと下品なんだから遠慮することはないわよ）お金だけの話で言ってみよう。年収 3000 万円のテレビ局のプロデューサーが、年収 5 億円のテレビタレントを使い、年収 2500 万円の国会議員の歳費が多いという番組を、年収 100 万円のワーキングプアや年収 500 万円を切る平均的国民に見せているのである。

年収 100 万円のワーキングプアや年収 500 万円を切る国民は、国会議員の年収 2500 万円は知らされるが、テレビ局の社員やアホ司会者の年収は知らされない。どちらもきちんと報道してくれれば、バカみたいな意見しか言わない（云えない）司会者達に数億円も払い、テレビ局の社員の平均年収が軽く 1000 万円を超えているのならば、国会議員の収入はそんなに多くはないと思うであろう。件のあほ司会者はたぶん節税と称して、いかに税金を払わないで済むかを税理士と共に必死で考えているに違いないし、テレビ局の社員は恵まれた福利厚生制度を享受しているだろう。

そういうことを考えるときには、国民の代表者である国会議員にはある程度の給料を払っても良いと思う。国家のために心血を注ぎ働いてくれるのであれば、少々の国民の負担は許されると思う。

（そうね、大体政治とか法律とか難しいことはえらい人に任せて、あたしたちは日常生活を楽しみたい、というのが本当のところだものね。ある程度というかもっと沢山払ってもいいと思うわ。政治のプロという意味でね。）

今回の政治家の話はとりあえず国会議員の話に限定しよう。県議員とか市議員とか、町村議員に関してはたぶん、少し次元が変わってくるであろうから。

（まあ、それこそ田舎の議員は兼職というか、ポアンティアでもいいようなきがするわねえ。とても政治のプロという名には値しないわよねえ。）

編集後記

奄美大島の災害にはびっくりしました。台風被害ならそうまでびっくりしなかったかも知れません。でも、災害をこうむる側からいうと、大雨だろうが、台風だろうが、同じことなのでしょうね。前代未聞とか、100 年に一度とかいう言葉についつい翻弄されがちです。いつもの台風の被害か、たいしたことないなあ、などと。真実を伝えることより、興味を引くことにその価値観の軸足を移してしまっているマスメディアに毒されないように気をつけましょう。 と、メディア批判は実は困ったときの安易な逃げ道（表現）になりつつあるところもまた、現代なのでしょう。（KT）

